アシュラム
ASHRAM

2024. 7月第668号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

フランスの社会心理学者ギュスターヴ・ル・ボンの『群衆心理』という本を知っているだろうか。「人は『群衆』中にいる時、『暗示を受けやすく物事を軽々しく信じる』性質を与えられます。論理ではなく『イメージ』を喚起する力強い『標語』や『スローガン』によって、暗示を受け、その『暗示』が群衆の中で『感染』し、その結果、群衆は『衝動』の奴隷になっていきます。これが『群衆心理のメカニズムです」（『100分で名著』より）。

ヒトラーがこの本を愛読し、ナチスの民衆支配の指針としたというのも頷けるだろう。そして、それは現代の高度情報化社会を生きる私たちにとっても、決して無関係のものではない。SNSやYouTubeなどを通し、私たちは瞬時にして大量の情報を送受信できる。それは、非常に便利なものであると同時に、この「群集心理」の危険性を大いに孕んだものでもあるのだ。昨今よく言われる「フェイクニュース」や「投資詐欺」などの例を挙げるまでもなく、ましてや、憲法改正について、かつて総理大臣経験者が言い放った「ナチスの手口に学んだら」などという暴言が、まさにこの「群集心理」の危険性を証しするものであろう。

「あなたは根拠のないうわさを流してはならない。悪人に加担して、不法を引き起こす証人となってはならない。あなたは多数者に追随して、悪を行ってはならない。法廷の争いにおいて多数者に追随して証言し、判決を曲げてはならない」（出23：1－2新共同訳）と、出エジプト記には、モーセの十戒が授けられた後、それに伴う数多くの細則が決められたことが書かれている。それは、奴隷の扱いから、傷害や盗みに対する罰則や賠償、そして法廷での証言に至るまで、多岐にわたる。しかし、そこで命じられていることを、端的に言い表すならば、それは神と人の前で、いかに公平で公正に振る舞うかということに尽きるのではないだろうか。神の義に従うこと、これこそが今に至るまでの信仰者の究極の姿なのである。しかし、それを守ることは至難の業である。なぜなら、私たちは、いつも群衆の一人であるからだ。主を十字架につけよと叫んだ群衆、も。エフェソの野外劇場で、パウロに対し、「アルテミスは偉い方」と叫び続けた群衆然り。も。私たちはいつもこの「暗示を受けやすく、物事を軽々信じてしまう」群衆の一人なのだ。

瞑想

訴訟において多数者に合わせて答弁し、判決を曲げてはならない。

出23：2（協会訳）

主幹牧師　榎本　恵

では、私たちはもうそこから逃れることのできない、どうしようもない存在なのか。政界も、経済界も、宗教界も、「ポピュリズム」の嵐が吹き荒れ、「群集心理」の波に飲み込まれそうになる中で、もうそれに抗う術はないのだろうか。いや、そうではない。福音書の中で、イエスは、熱狂し集まる群衆を常に解散させられる。5つのパンと2匹の魚によって5000人余りの群衆に食事を与えた後、「すぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた」（マタイ14：22）のだ。そして「群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった」（マタイ14：23）と記すのだ。

そう、友よ、私たちもこの群衆でいることから、解散しよう。強いてそこを離れ去り、心鎮め醒めた信仰に生き、静かに祈るものとなろう。それこそが、興奮と熱狂という衝動の奴隷となる「群衆心理」に陥りやすい私たちを守る唯一の方法なのだから。

（今年の第49回 年頭アシュラム「ビジョンを語る会」にて紹介された、センター主催の各地集会より）

Ｚｏｏｍ聖書教室の恵み

樋口　洋一

Ｚｏｏｍの聖書教室は、第１火曜日の「Ｚｏｏｍ聖書教室」、第２土曜日の「聖書と学ぶ会」（榎本空氏主催）、第３月曜日の「使徒書に学ぶ会」、それから第４水曜日の「美しい足の会」です。こんなにオンラインでアシュラムができるとは思っていませんでした。私はＺｏｏｍ聖書教室と美しい足の会に参加しています。

これの出発はコロナ禍で集まれなくなったがために採用したものかと思います。私の記憶する限り、一番早くＺｏｏｍを採用したのがアシュラムセンターだと思います。わたしのところも信徒が集まれないので、Ｚｏｏｍで祈祷会と日曜日の礼拝を発信するようになりましたが、アシュラムセンターでこのやり方を見なかったら出来ませんでした。コロナは災いだったけれども、悪いものだけではありませんでした。

四つの聖書教室の中で美しい足の会には、参加せざるを得ないので参加しています。これは池谷治朗くん、彼がＺｏｏｍで横たわったままの姿で参加するのを見て、中風の人が横たわったままでイエス・キリストの前に出たあの姿を思い衝撃を受けたからです。挑戦状を叩きつけられたような衝撃でした。彼は制約の大きい中でＺｏｏｍを通して新しいやり方でみ言葉を聴くことを、身をもって示しました。あれが私にとって一番の恵みだったと思います。

これからもＺｏｏｍの聖書教室に参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

（日基島原教会牧師）
（早天祈祷会の友）

Zoom聖書教室、始まりの頃。2021年。池谷兄、尾﨑恵姉、今も天から、ご参加されていることでしょう。

池谷治朗兄。出かけられなくてもZoomにて、早天祈祷会、聖書教室に参加できる道を開いてくださった!!

大阪聖書教室の恵み

島田　洋子

大阪聖書教室は毎月第３火曜日の10時半から恵先生が２時間かけてお越しくださっています。今はアベルモンさんと光太さんも来ていただいて、今までと違った豊かな恵みをいただいているところです。

メンバーは堺大浜キリスト教会から唄野絢子さんはじめ多くの方が来られています。時々新しい方が来られますが、なかなか続かないのが現状です。

今はマタイによる福音書を順番に読んでいて、示されたことを先生のメッセージと共に皆さんの受けた恵みを自由に語る中で、こんなふうに聖書が読めるんだなと多くの気づきが与えられる、恵みな時です。また、だんだん皆さんと長くお付き合いできるようになって親しみができて、とても恵まれる聖書教室です。新しい方が与えられたらと願っています。

（高槻聖書キリスト集会）

５月、恵師不在のためアベルモン宣教師大阪デビュー！るつこ姉助っ人。

菅原　博兄
みもとに･･･

保郎師時代からのアシュラムの友。常任運営委員に立ち、長年、姫路から通われた。年頭や阪神等アシュラムご参加を大切に。静かに聴き祈り、黙々とご奉仕、そして、お献げ続け下さった。

（2024.2.21　89歳ご召天）

とても親しい信仰の友、和子母と。
2018年1月の年頭アシュラムにて

誕生日カード感謝のお便り（7年程前の）をご紹介します

森　よし子姉（2024.1.15ご召天）

阪神一日アシュラムご参加。年頭アシュラムには待望祈祷でご参加。

私の誕生日、多勢の方にお祈り頂き有難うございました。痛む腰を打ち乍ら、90歳を迎える事ができ、私自身驚いて居ります。

主人の介護もあり教会へは殆ど行けませんが、アシュラムに導かれ続け、感謝して居ります。センターの上に主の御祝福をお祈り申し上げます。　2017.5

よし子姉 画

（長女の幸子様からお便りあり）

…母は亡くなる三日前まで、かなり自立していました。アシュラムの皆様には本当によく祈って頂き、感謝です。私は、両親の穏やかさに助けられつつ、同居、介護を全うできたことにほっとしています。皆様のご健康をお祈りしています。

2024年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝

主の平和

今年もまた、「天上の友を憶える日礼拝」の案内の季節がやってまいりました。この1年間の間に天に召された友を覚え、祈りを合わせる大事な時です。今年は、ちょうど初代主幹榎本保郎牧師の命日と同じ日となりました。1977年7月27日、保郎牧師はロサンゼルスで、52年間の生涯を閉じました。あの日から47年の歳月が経ちますが、私には、今も記憶の底に深い影を落としています。人の死と別離は、重く辛いものです。なるべくならそのような気持ちにはなりたくはない。それが正直な私たちの気持ちでしょう。毎日のように流れるガザやウクライナでの死者のニュースに目を逸らしたくなるのです。そして国内外で起こってくる事件や事故に耳を塞ぎたくなるのです。しかし、そこに十字架につけられ、最も惨めで、痛ましい主の姿を見るのです。

天上の友を憶える日とは、まさにこの死と別離の悲しみの奥にある、希望の光を見出すことなのです。

どうぞ共に祈り、賛美し、この天上に帰った友を憶える時を持ちましょう。

アシュラムセンター主幹牧師　榎本恵

中道晴夫兄作
（2023.6.7召天日）

故人氏名（敬称略）	召天日	召天時在住地
池原　信徳	2023	沖縄
松阪　智弘	2023. 6. 26	東京
丹後源太郎	2023. 7. 30	新潟
榎本　和子	2023. 8. 15	滋賀
倉田　悦治	2023. 10. 24	京都
柳沢　良男	2024. 1. 2	埼玉
加々美　要	2024. 1. 7	埼玉
森　よし子	2024. 1. 15	兵庫
福岡　時彦	2024. 1. 20	愛媛
阿部　眞也	2024. 1. 25	新潟
小林　茂男	2024. 2. 7	茨城
菅原　博	2024. 2. 21	兵庫
田中ヒロ子	2024. 3. 14	兵庫
柴川　明子	2024. 4. 29	北海道

2024年 天上の友を憶える日礼拝

日時：2024年7月27日（土）　pm1:00より
場所：シメオン黙想の家、庭
〈住所〉近江八幡市土田町1191
〈お問い合わせ〉
Tel 0748-33-4030（アシュラムセンター）
Tel 080-3983-8140（榎本 光太）
野外礼拝の予定です。暑い時期でもありますので、平服でお越し下さい。
（※天に召された方のスナップ写真をお送り下さると幸いです）

昨年も、シメオン黙想の庭にて。
風…まさに聖霊の風吹く中で。それはどこから?

主幹牧師の2023年度の振り返りと2024年ビジョン(5)

2024年度のビジョン

その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。　ヨエル３：１

4）アシュラム村の住民たち

最後に、昨年新しく、アシュラムセンターを中心とした「アシュラム村（仮称）」に加わってくださった方々を紹介します。

まず、福岡から、昨年２月にご夫婦で越して来られた、樋口隆利兄、栄子姉です。お二人は長年、福岡の地でアシュラムの友として、良い交わりを持ち続け下さいました。長女の希さんは、アシュラムセンターの常任運営委員でもあり、ご一家でアシュラムセンターを支えてくださっている大切なアシュラムの友です。この度、九州の地から近江八幡に移り住み、今まで離れて暮らしていたご家族が再び一つ屋根の下に暮らすようになりました。また、不思議なことに、センターのすぐ近くに家が見つかり、同じ町内会の一員となって、毎朝の早天祈祷会にも来てくださっております。共に祈る家族が増えることほど喜ばしいことはありません。また、アシュラムの助け手としても良き働きをしてくださっております。

次に、同じく昨年の２月に修道場の旧牧師館に住むようになりましたのは、白鳥裕子さんです。彼女は、私の妻、康子の妹で静岡に住んでおりました。この度、先に越してきた95歳になる父、河村琢郎の世話をするため移住してくださいました。私たちは個人的にもずいぶん助かっておりますし、また「アンナ祈りの家」「シメオン黙想の家」の掃除洗濯など、よくご奉仕してくださっています。ただ、まだ受洗はしておらず、クリスチャンホームに育った彼女が主を受け入れられるよう祈り願っています。

そして昨年10月に、ブラジルより来日したアベルモン・バストス宣教師を紹介します。彼はブラジル北部のバイアー州サルバドール出身の45歳になる独身青年です。ブラジリアのアライアンス教会の安井トシ牧師のご紹介で、ブラジルバプテストサルバドールメトロポリタン教会、そしてブラジルの宣教団体AMIDEから派遣され、２年間の契約で、アシュラムセンターを拠点とし、宣教活動を行うことを目的として来日されました。今は、まず日本語を習得することを目的とし、勉強中です。私たちにとりましても、宣教師を受け入れるということは初めての経験であり、法務局でのビザの申請や、また日本語学校のことなど、戸惑うことも多かったのですが、不思議に道が開かれ、全てが順調に進み彼を受け入れることができました。さまざまなポジションにおられるアシュラムの友のお陰ではありますが、アベルモン流に言うなら全ては「神様のおかげ」であると思います。来年には、日本語で説教ができるようになることを一つの目標として、頑張っております。どうぞ、期待しつつお祈りください。願わくは、このことを通して、アシュラム運動がさらに大きく広がっていきますように、祈りを合わせていただけたら幸いです。

ここ近江八幡には、かつてアメリカ人宣教師ウイリアム・メレル・ヴォーリズを慕い、日本各地から、また世界中からキリスト者たちが集まってきました。そして家を建て、職を持ち、信仰生活を共にした「近江兄弟社」ができてきたのです。それは信仰共同体という、遡るならば、初代教会や「ローズンゲン」を生み出したヘルンフート兄弟団に行き着くキリスト者の理想の姿なのではないでしょうか。もちろんその多くは、過去の遺物となってしまったものも多くあるのは事実です。また最初の頃の志とはずいぶんと変わってしまっているところも多くあるでしょう。しかし、その最初の純粋な祈りと願いは時を超えて受け継がれていくものです。私たちアシュラムセンターも21世紀のキリスト者共同体を目指し、この地にあって「アシュラム村」を目指したいと願っています。これからも、どんな人が、神様によって遣わされてくるかわかりませんが、み言葉に聞き従いながら、祈りと賛美に満ちたキリスト者の共同体となるように祈っています。

以上が、昨年2023年のアシュラムセンターの働きの振り返りであります。どうかこれからも、アシュラムセンターのために祈りを合わせてください。　（続く）

６月夕礼拝後の愛餐会。アシュラム村の皆様と。
アベル門作ブラジル料理フェジョアーダも！

〈誕生日カード感謝のお便りから…〉

おばあさんになった今の私を　この所まで支え導いて下さった神様に　感謝申し上げます。
一日を大切に過ごせますようにと　祈る日々です　花田　緑（北海道）

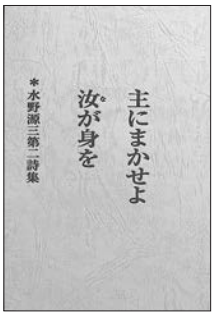
・二年ぶりの師との交わりも　特急に急かされての　たった十五分間
・米国へ旅立つ前に記されし　師よりの便りが最後となりし　水野源三（一九七七年）

・四年前はじめてもらいし愛に満ちし師のお便りは　亡母と読みたり
・「わが恵み　汝に足れり」と詩集に名づけてくれし　榎本師の訃報　水野源三

<「おわりに」補記>

「主にまかせよ　汝が身を」の生まれるまで

榎本和子



“私が御国へ召されるときまで/母よ病気をしないでいてほしい/健康でいてほしい/そうでなければ私は/聖書を学べない/手紙を出せない/詩を作れない/生きられない”

水野源三さんの第一詩集「わが恵み汝に足れり」に所収された「母の日」の詩句です。

源三さんの切なる祈りも空しく、母堂うめじさんは、第一詩集が完成した一週間後、昭和50年３月２日に、源三さんの処女詩集を抱いて召天されました。

主は、その後も源三さんを助けてくださいました。

手の自由を全く奪われている源三さんの聖書のページは、幼い姪御さんが操ってくれました。源三さんのまばたきの解読と記録の役目を、弟さん哲男氏の夫人秋子さんが見事に果たし、母堂うめじさんの意志を継いでくれました。日常のめんどうをみておられる哲男さんの事業の失敗、ご自分の変わらぬ肉体的苦痛と、源三さんの物心両面の苦悩は並々ならぬものがおありと察せられます。けれども源三さんは、人並はずれた苦しみを克服され、主とともにある輝きに満ちた毎日を送り迎えておられます。

３年余前に、「わが恵み汝に足れり」の出版にささやかなお手伝いをさせていただいた榎本も、南米伝道の旅への途次、病を得て、昨年７月27日にロスアンゼルスで、天に召されてしまいました。出発の前日に、長野県坂城の源三さんをお訪ねして帰ったとき、「源三さん元気だったよ。詩は相変わらず作っている。第二詩集も間もなく生まれるね」と語ったことも、きのうのことのように思い出されます。

水野源三さんの詩集誕生は、何か目に見えぬ大きな力に導かれているように思います。処女詩集が生まれるまでの流れを知っていただきたく、第二詩集の巻末にも、第一詩集に榎本が書きました「おわりに」をそのまま掲載させていただきました。…（その補記より）

1978年７月16日

５月みんなのカフェちいろば聖書入門講座。静聴後、心開かれて…

←５月修道場アシュラム。Ｚｏｏｍ早天の友との出会い！

いえじま 雑記 13
アリの行列、ハテ？

伊江島は雨が降り続いています。数ヶ月前は水不足が叫ばれていたのが嘘のように、今ではダムから放水していると聞きます。海が真っ白な霧に覆われると、対岸に横たわる沖縄本島の姿は見えなくなります。そんなとき伊江島は他の世界から切り離された孤島になり、僕はいつまでもその霞むような白い景色を見ています。その向こう側にあるのは、もしかしたらまったく別の国なのではないか、この霧が晴れたらまったく別の世界が現れるのではないか、そう思いながら。ノアの方舟の物語では、神が四十日四十夜雨を降らしたと書きますが、その先に見えたのは約束の虹でした。そうして窓の外にじっと目を凝らしていると、足が何やらもぞもぞとします。アリです。連日の大雨に嫌気がさしたのか、雨宿りか、食料がなくなったのか、家の中にアリが大量発生しています。最初は頑張って対策していた私たちも、多勢に無勢、最近は我が物顔をしたアリたちが床に行列を作る始末。どうしたらいいものか。ノアの方舟にアリのつがいは乗っていたのでしょうか。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）

あとがき

今年の夏も随分と暑くなりそうである。今年の３月より、月に一度一週間沖縄のサマリヤ人病院へ、ご奉仕させていただいている。人生の最期を迎える人たちに寄り添い、彼らの魂の平安を祈ることが、チャプレンとしての私の主な働きである。多くは寝たきりのまま、天井を見つめるだけの寝たきりの老人である。しかし、その一人一人の名前を呼び、おしめを替え、爪を切り、食事を介護する、看護師や介護士の方々の姿に頭が下がる。ここに来るとマザーテレサのことをいつも思い出す。インドの路上で行き倒れになった人々を介抱し、その最期を愛されたものとして看取る。考えてみれば、この目の前に横たわっている一人一人は、皆沖縄の過酷な戦争と、戦後の混乱を生きてこられた方達だ。彼らのために祈ろう。その魂を、必ず平和の主が受け止めてくださることを信じて。

今年も79回目の夏が来ようとしている。

（恵）

現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないとわたしは思います
ローマ九：18
榎本和子
（恵出産時 病院の壁に掲げられていた聖句）

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】**0748－33－4030** アシュラムセンター
【Zoom•インターネット等 問い合わせ先】**080－3983－8140**

７月の聖書教室など

2㈫	Zoom聖書教室（Zoom　AM10:30、PM7:30）
5㈮	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会　PM1:00）
13㈯	聖書と学ぶ会（Zoom　PM8:00）
15㈪	使徒書に学ぶ会（Zoom　PM7:30）
16㈫	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター　AM10:30）
17㈬	みんなのカフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草　PM1:30）
19㈮	センター聖書教室（アシュラムセンター　AM11:00）
27㈯	天上の友を憶える日礼拝
28㈰	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
29㈪	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館　AM10:00、PM1:30）
30㈫	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F　AM10:30）
30㈫	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル　PM2:30）
31㈬	美しい足の会（Zoom　AM10:30、PM7:30）

７月のアシュラムなど

15㈪	福岡一日アシュラム（福岡中部教会） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
20㈯	四国一日アシュラム（三島真光教会） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
25㈭～27㈯	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

８月のアシュラム予定

11㈰ PM2:00～12㈪ PM2:00	第２回 ユースリトリートアシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

青年の皆様 ご参加お待ちしています‼
詳細、お申し込みはホームページで！

９月以降のアシュラム予定

９月12㈭～14㈯	修道場アシュラム
９月15㈰～16㈪	第３回 ユースリトリートアシュラム
９月26㈭～27㈮	第12回 日光オリーブの里アシュラム
９月28㈯	水戸バプテスト教会一日アシュラム

沖縄巡礼の旅初日、サマリア人病院訪問後、聖書教室、首里教会にて。後方下には戦争で傷ついた十字架が。

みことば

ゲットウの花、おきなわ

日本キリスト教団取手教会
牧師　金子敏明

屋根を突き破れ！

ルカ５：17～26

　以前住んでいた某教会の牧師館は築50年にならんとするあばら屋だった。地震や雪の影響で瓦が崩れ、屋根を工事することとなった。まず瓦を剥がしていき、その下にある木の部分が腐っていたのか、職人さんが突然ズボッと下に落ちてきた。「私が癒さねばならない時が来たのか…」

　律法学者たちは、中風の人が病気になったのは「律法を守らない、罪の結果」だと考えていたようだ。一方、イエスにとっての罪は「神様の愛を受け止めようとしないこと」にあった。周囲の人々は中風の患者を一人の人間として扱っていなかった。彼をそう追い込んでいた状況こそが罪なのだ。

　だが中風の彼を取り巻く状況は絶望だけでなかった。周囲の男たちが大群衆をものともせず、天井を剥がしてまでイエスの前に連れてきた。そこには「罪人である病人には関わってはならない」という人間関係の破れは存在せず、一人の病める者をなんとか助けんとする祈りがあった。

　重い皮膚病を患った人をイエスが癒された出来事が伝わったからだろう。イエスの奇跡が男たちに、当時の常識、世間の目、ファリサイ派の権威までも乗り越えて、真実の愛を人に示せと促したのだ。「そうだ、ファリサイ派がどうのじゃなくて、この人をイエスの元へ連れていかなきゃ」彼らの常識破りな愛の行為を確かめて、それをここにいる群衆と共有して、その上で彼を癒されたのだ。人の悩みは色々ある。でもそれらは結局のところ、「人が人として愛されていない、人との関係から切り離されてしまっている。」ここに集約されるのではないか。

　屋根付き球場のことを「ドーム」と呼ぶ。元々は円形の屋根を持つ建物のことで、イタリア語で教会を示す「ドゥーモ」から来ている。ドーム球場はいつもエアコンが効いていて、雨でも試合ができて快適ではある。

　一方で我がヤクルトスワローズの本拠地である明治神宮野球場は屋根がない。雨も、夏の西日もキツイ。その代わりに夜空の星や夏の風の匂い、夜空の花火は最高である。それが屋外の球場で野球をする、観戦する醍醐味ではないか。ふと思う。世の中の状況の中で風に揺られたりフラフラしながらも、快適さとは無縁に歩むのが教会ではないか。

　男たちが中風の男性をなんとか助けたいと思うあまりに、屋根をべりべりとこじあけた。それはドームが屋外球場へと突き破られる出来事だった。教会も自分たちの屋根を突き破って宣教する共同体ではないか。

　トリック教会のフランシスコ教皇は教会をこう定義している。

「今日の教会に必要なのは、傷を癒やし、信仰心を育む力だというのは明らかだ。教会は野戦病院であれ。」

「ドーム型教会」ではなく「全天候型教会」で行きたいものだ。

早天は川べりの小石を毎朝集めているよう…。
きっとそれが大きな力に…。恵師余談（サムエル記ダビデとゴリアト）

早天のめぐみに感謝します
貝出久美子（徳島）